

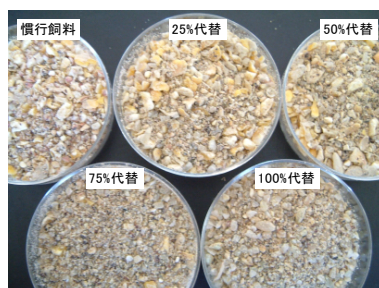
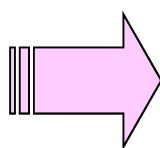
# 比内地鶏への飼料用米給与法の検討

## ◇背景と問題点

家畜に給与する配合飼料の主原料はそのほとんどを輸入に頼っている。自給可能な飼料用米を配合飼料原料として利用することができれば、海外の穀物事情に左右されないうえ、飼料自給率の向上につながる。

そこで、比内地鶏仕上げ期の配合飼料原料として玄米が利用できるか検討する。

試験期間：平成21年度

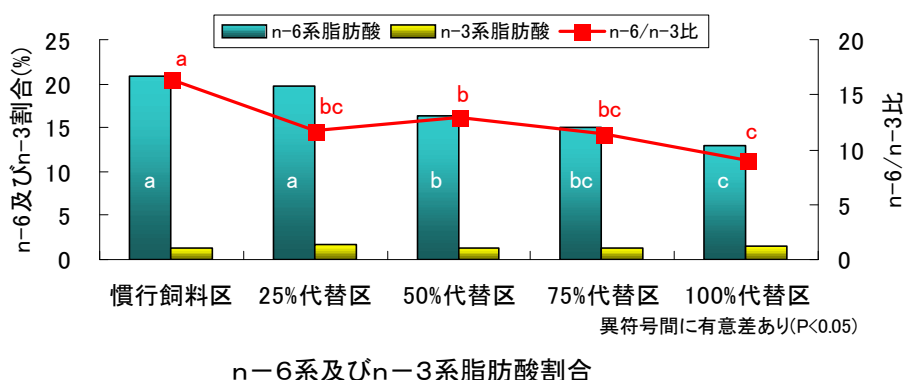


供試した飼料

**慣行区と、玄米による  
トウモロコシ代替割合  
を25,50,75,100%にした  
飼料を給与**

## ◇研究の成果

- ・発育などの飼育成績、解体歩留まり、及び肉色に玄米配合の影響は認められず、代替が可能
- ・もも肉において、従来法と比べ75%以上代替で、有意にオレイン酸含量が高く、n-6系脂肪酸であるリノール酸含量が低くなる



**n-6/n-3比**：n-6系多価不飽和脂肪酸とn-3系多価不飽和脂肪酸の比率。  
食品から摂取する際の目安として、健康な人で4:1が望ましいとされている。

## 効果

- 発育や肉の一般組成に差は無く、玄米による代替が可能
- 飼料用米給与によって、脂肪酸組成が改善され、新たな付加価値を付けた販売戦略が可能となる